

平成29年9月15日

関係各位

公益財団法人日本バスケットボール協会  
審判部

## バスケットボール競技規則の主な変更点および国内での施行日について

2017年8月15日付で、国際バスケットボール連盟(以下、FIBA)より、FIBA セントラルボード(中央理事会)で最終提案・承認された「Official Basketball Rules 2017(競技規則)」が通達されました。

主な変更点および国内での施行日について、下記の通りお知らせいたします。

### 【施行開始時期】

- (1) FIBA 主催大会については、2017年10月1日より施行とする。
- (2) 国内トップリーグ(B1,B2,B3,WJBL)においては、2017-18シーズンから導入する。
- (3) 変更点は現段階(8月26日付)の解釈で実施する。
- (4) 当協会主催の第93回天皇杯・第84回皇后杯 全日本バスケットボール選手権大会においては、3次ラウンドから施行とする。
- (5) 国内での施行日については、2018年4月1日からとする。

### 【参考資料 URL】

1. Official Basketball Rules 2017  
<http://www.fiba.basketball/OBR2017/v11/15Aug2017.pdf>
2. Official Basketball Rules 2017 – Basketball Equipment  
<http://www.fiba.basketball/OBR2017/BasketballEquipmentv7/15Aug2017.pdf>
3. Summary of the changes – Official Basketball Rules 2017  
<http://www.fiba.basketball/OBR2017/Summaryv4/15August2017.pdf>

変更点の主な概略は、以下の通りである。

### (1) トラヴェリング

動きながら片足が床についてボールを受け取るときやドリブルをしていたプレイヤーがドリブルを終えるとき、床についている足の「次の足(他方の足)をピヴォット・フット」とする。

### (2) アンスポーツマンライク・ファウル

※次ページ参照

### (3) ゲーム・ディスクオリフィケーション(下記が追加)

1プレイヤーにテクニカル・ファウルが1回、アンスポーツマンライク・ファウルが1回、合計2回が記録された場合に失格・退場となる。なお、コーチ(プレイヤー兼)に関しても同様とする。

## アンスポーツマンライク・ファウル適用における重要な確認事項

### 【確認事項】

アンスポーツマンライク・ファウルについては、下記(1)～(5)のクライテリアに該当した場合、試合中すべての時間帯(試合の終盤また得点差に関係がなく)で適用し、アクション(起きた現象)のみで判断する。

### 【解釈】

いわゆるタクティカル・ファウル(戦術的なファウル)だけでなく、試合の終盤に行われていた、いわゆるファウル・ゲームもアンスポーツマンライク・ファウルの対象となる可能性がある。

### アンスポーツマンライク・ファウル(UF)が適用される場合

※今回の競技規則改正により(3)が追加となった。

- (1) ボールに対するプレイではなく、且つ、正当なバスケットボールのプレイとは認められないと審判が判断したプレイ
- (2) 過度な接触(ハード・ファウル)と審判が判断したプレイ
- (3) ディフェンスプレイヤーが直接ボールにプレイせず、速攻を止めることだけを目的とした必要のないファウル、またはオフェンスの進行を妨害することを目的とした必要のないファウル(このルールはオフェンス側のプレイヤーがショットの動作に入るまで適用される)
- (4) ラスト・プレイヤーの状況で、後ろからもしくは横からのファウル(ラストプレイヤーシチュエーション)
- (5) 第4ピリオドもしくは延長残り2分の状況で、スロー・インのボールが手から離れる前にディフェンスのファウルを取り上げた場合

以上